

志村区長と 商連若手との懇談会

平成24年11月21日午後6時、ホテルカデンツア光が丘において、志村区長と商連若手との懇談会を開催。商連60年の歴史のなかで、はじめての企画です。テーマは、「地域の特性を生かした魅力ある商店街づくりを考える」。

挨拶

司会者(江村) たいまより、「区長と商連若手との懇談会」を開催いたします。申し遅れましたが、私は商連副会長の江村健二です。青年部長を兼務して、この関係で司会を務めることとなりました。よろしくお願いたします。はじめに、篠利雄会長が挨拶申し上げます。

篠利雄 本日はお忙しい中、志村区長には時間をおとり頂きご出席頂きました。厚く御礼申し上げます。昨年12月、各商店会に呼びかけ、若手に集ってもらいました。そして、本年2月、「練馬商人会」という名称で、盛大な交流会を開催しました。その実行委員が、本日お集まりの皆さんで、小泉さんにも参加して頂き、いろいろアドバイスを頂きました。実行委員は、まさに商店街の将来を担う皆さんです。あらゆる面で活躍して頂きたい、と



練馬区長 志村 豊志郎 様



産業経済部長 宮下 泰昌 様



商工観光課長 米 芳久 様



練馬区商店街連合会会長 篠利雄



練馬区商店街連合会監事 小泉 徳明



副会長(青年部長) 江村 健二

した。あの頃は、商店街にも若い従業員が随分いました。その方々が昼間テレビを観ることができず、オリビックの行方がわからなかった。それで、バスを仕立てて石泉地区の商店街の店員さんをつれて、会場を見学してまわったことがあります。そういった形で、私は非常に商店街と向き合ってきたつもりです。

その後、区長になる前は企画部長として、予算を立てる仕事をやりました。商店街の皆さんからいろいろな要望を頂きながら、仕事をさせていただきました。区長になってからは、会長や幹部の皆さん、特に篠利雄会長には大変お世話になっております。

今日のテーマ「地域の特性」ですが、どんな分野でも特性というものがあります。それぞれの地域にあった開発の仕方が大事だと思います。商店街の振興は、一つの基準はありますが、その基準をいかすのも地域特性に合わせた発展を考えなければならぬと思います。

昨日の3月11日、東日本大震災が起きました。それを契機に、やはり地域がつながらなくていけない、地域の絆といたことがいわれるようになりました。地域の絆を強化するに際して、もとともある商店街、町会、自治会が中心となり大きな力を発揮したと思います。とりわけ商店街の皆さんは、商いのほうで大変お忙しいなか、地域のためにいろいろなことをやってくれています。それが地域の発展、絆の強化の礎になっていると思います。

私も、商店街の幹部の皆さんといろんな形でつきあわせて頂いています。私が、幹部の方たちの中には、「若手が育つてくれない」「私たちが引退したいんだけど、跡をついでくれない」という人がいます。町会、自治会も同じですね。今日は若手の皆さんの懇談会ということですが、若手というより幹部です。だから皆さんには、これからの商店街を、新しい発想でまとめて頂きたいと思っています。今までは一味違う商店街に発展させて頂きたい。それぞれ要望もありません。でも、それをとりまとめた上で、発展に結びつけるのが今日お集まりの皆さんだと思います。今日の話をよく伺って、行政にいかしていきたく思います。

と青年部の2本柱でした。現在は青年部が中心となって活動しています。店舗が並ぶ商店街とは程遠い商店街ですが、地元に着いた活動もいっしょに考えています。商店街活動を通じて、会員同士の親睦を深めるとともに地元の方々と大切にし、愛される商店街でありたいと考え活動しています。

笠原 笠原宏之と申します。春日町通り商店会の副会長を仰せつかり、小泉会長のもとで活動しています。家業は美容院で、母から継いでいる代目です。母は20年前に他界しております。小さい頃から年配の方々の話を聞かされ、年をとると、生きることに、死ぬことについて沢山見聞してきました。

現在、私どもの商店街では「ふれあい市場」を毎月1回開催しています。増町と偶然の縁で結ばれた市場が始まり、小泉会長と一生懸命やってきました。しかし、今は区の助成があつて何とかやっていますが、先果たして続けていけるのか、という問題に突き当たっています。そこで、NPOを立ち上げることにしました。現在申請中で、間もなく認可が下りる予定です。「練馬区を高齢者の住みやすい街No.1にしたい」というコンセプトを掲げて申請しました。

自己紹介 それでは若手の皆さん、自己紹介をお願いします。板倉 私は、栄町通り商店街の板倉貴志と申します。表具店を営んでいます。職人としての誇りがいかにあっても、初代が牛込区で表具店を開き、大正末期の震災で被災し栄町で商売を再開、私で3代目となります。

私も、和菓子屋です。和菓子という文化です。しかし近年、日本では文化がどんどんなくなつてきている。たとえば父の日、母の日、お彼岸、お盆などの年中行事が薄っぺらになっていきました。是非もう一度、日本人が文化を思い出すようにできたら、と思っています。

このように、大泉学園町商店会は文化というところに特性を見出して頑張っています。富永 富永吉宏と申します。土支田地蔵通り商店会から来ました。魚忠という飲食店を営んでいます。商店街の活動として、練馬区のご支援を頂き、また、練馬区のご支援を頂いて、販売を始めています。人の周知が徹底していない印象です。たとえば、空き店舗探しにまず不動産屋に行きますが、そこで「こういう制度がありますよ」と紹介できるような、不動産業者の組合に働きかけるのはどうでしょうか。また、跡継ぎがないために無理して販売を続けている方もいます。新規に「コストがかりすぎ」「居抜き」というか、他人でもやる気のある人が事業を引き継ぐという制度があればいいなと思います。

2つ目は、今商店街が何もしないままじり貧になっていく。だから何かやらなくてはというところ、私も区や都の指導のもと、勉強会を行っています。商店街にある空き店舗を有効に「ゆうゆう広場」と名付けて高齢者から子どもまで楽しめるスペースを作ろうと考えています。産直野菜の販売や地域に住む子どもや高齢者が、幅広く交流できるモデルスペースを提供できればと思っています。しかし、いかにせん開設費用に対して収入が見込めない。うまく運営できる方法はないかと検討しているところです。

3つ目は、最近どうもそうではない、商業地が廃業したり代替わりしたりした後に戸建ての住宅やワンルームマンションが建つケース、商店街としての連続性が保たれなくなっている状況が多々見られます。私どもの商店街は駅に近く、容積率や建蔽率が緩和されているので、投資目的の住居にすれば部屋数が増やせます。そこで、店舗にせず住宅にするケースが多く見られるわけです。現在、せめて一階部分は店舗にするという申し合わせができませんか、と働きかけているところでもあります。

それから、江古田地区の地域特性として、音楽大学や芸術学部があり芸術関係の学生、音楽部や絵画や演劇をめざす学生が多く、有名劇団の本部やキーという人がいるかもしれない。2か月後にやる喫茶店があつたとき、喫茶店をやりたい人がその設備のまま渡せばよい。そういう仕組みを考えたら面白くないと思います。

もう一つ、商店街が戸建てに代わる話について。小さな商店が多く、間口が狭いですよね。既存のものだと、併用住宅で玄関と店が一階で、店をやめても1階だけ貸すとなると、人様の店の中を出入りすることに1階だけ貸すことはできない。自分以上に住みたいけれど、間口が狭いため「地区計画」という制度があります。これは、みんなが話し合つて決めれば、1階は店舗にと強制することもできる制度です。

尾方 尾方英士と申します。私所属は篠利雄会長の御膝元、平和中央商店会、副会長をさせて頂いています。また、商人会の実行委員長も仰せつかついています。水道工事店の2代目です。息子も一緒に働いているので、どの段階でパトナツチするかを考慮して考えています。

次に、栄町の商店街活動についてですが、理事は全員で15名おられます。私も理事として活動しています。私と同じ40代は3人います。どの商店街もそうだと思います。平均年齢が高い中、若い人を集めて盛り上げていきたいと思っています。

春日町通り商店会 笠原 宏之

平和中央商店会 尾方 英士

栄町通り商店街振興組合 板倉 貴志

土支田地蔵通り商店会 富永 吉宏

大泉学園町商店会 片山 和彦

大泉学園町商店会 佐藤 公明

意見交換 それではここからは篠司会者

感想 産直野菜の話があれは商店街の連続性を理由に説得することはできるかもしれません。周りの商店の方も、協力する姿勢がほしいですね。そうでもない、私有財産ですからどう使おうと区は文句は言えません。でも、「商店街の連続性は大事だから守ってほしい」ということは言えます。区にはそういうケースが入ることは少ないから、むしろ地域の問題として扱ったほうがいいと思います。

宮下部長 空き店舗が増えているというところで、その解決のためには補助金を出していますが、今ひとつ徹底していないという話がありました。そこで、私もいろいろ考えておりましたが、たとえば空き店舗を探している人は街をうろつろしているはずなので、「ここが空なので、借りたらどうですか」と声をかけるとかいろいろ考えはありますが、周知の方法を含めもっと考えていかなきゃと思います。

「居抜き」というのは面白いアイデアですね。居抜きならキーという人がいるかもしれない。2か月後にやる喫茶店があつたとき、喫茶店をやりたい人がその設備のまま渡せばよい。そういう仕組みを考えたら面白くないと思います。

もう一つ、商店街が戸建てに代わる話について。小さな商店が多く、間口が狭いですよね。既存のものだと、併用住宅で玄関と店が一階で、店をやめても1階だけ貸すとなると、人様の店の中を出入りすることに1階だけ貸すことはできない。自分以上に住みたいけれど、間口が狭いため「地区計画」という制度があります。これは、みんなが話し合つて決めれば、1階は店舗にと強制することもできる制度です。

宮下部長 「やめてください」とは言えませんが、だから事前

「私たちが育つてくれない」「私たちが引退したいんだけど、跡をついでくれない」という人がいます。町会、自治会も同じですね。今日は若手の皆さんの懇談会ということですが、若手というより幹部です。だから皆さんには、これからの商店街を、新しい発想でまとめて頂きたいと思っています。今までは一味違う商店街に発展させて頂きたい。それぞれ要望もありません。でも、それをとりまとめた上で、発展に結びつけるのが今日お集まりの皆さんだと思います。今日の話をよく伺って、行政にいかしていきたく思います。

尾方 尾方英士と申します。私所属は篠利雄会長の御膝元、平和中央商店会、副会長をさせて頂いています。また、商人会の実行委員長も仰せつかついています。水道工事店の2代目です。息子も一緒に働いているので、どの段階でパトナツチするかを考慮して考えています。

次に、栄町の商店街活動についてですが、理事は全員で15名おられます。私も理事として活動しています。私と同じ40代は3人います。どの商店街もそうだと思います。平均年齢が高い中、若い人を集めて盛り上げていきたいと思っています。

春日町通り商店会 笠原 宏之

平和中央商店会 尾方 英士

栄町通り商店街振興組合 板倉 貴志

土支田地蔵通り商店会 富永 吉宏

